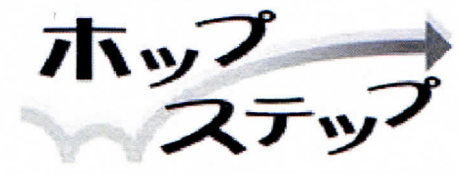


## アジア起業家村推進機構 専務理事

### 牟田口 雄彦さん



むたぐち・たけひこ 1952年佐賀県生まれ。中学時代に川崎市に移り、74年中大法卒、神奈川県庁に入庁。2001年に退庁し、コンサルティング会社などを運営。04年に同志らとアジア起業家村推進機構を設立した。

しかし、出るくいは打たれる。上司から突然、畑違いの部署への異動を伝えられた牟田口は「これまでの人脈がムダになる」と退庁を決意した。「同じ事業の

# 川崎の企業とアジア結ぶ

川崎市でアジアとの経済交流を語る時、欠かせない人物がいる。特定非営利活動法人（NPO法人）アジア起業家村推進機構の専務理事、牟田口雄彦（60）だ。50歳を目前に神奈川県を飛び出し、アジア企業の日本参入と地元中小のアジア進出を促す事業に第二の人生を賭けた。

6月末の年次総会で理事長に初の民間人を迎えた牟田口は「起業家村は発展の第2ステージに入った」と意気込む。設立から8年。「行政の支援でコソコソ信

用を積み上げる段階から、民間主導で海外に打って出る段階に来た」と言う。その象徴が中国やベトナムなどで検討中のアジアテ

クノセンター構想だ。海外で活躍する日本人経営者らとの和橋（わきょう）会と組

# 県庁飛び出し起業家育成

士山田長満（現川崎商工会議所会頭）と組んで「かわさき起業家オーディション」の定期開催を実現。さらに海援隊21の活動などを通じて実感したアジアの活力を取り込もうと、川崎市に働き掛けて創業支援施設のアジア起業家村を発足させた。施設ではアジア各国のベンチャー30社余りが入居したり、巣立ったたりしている。

そのうちの1社、環境関連ベンチャーのジャンプ社長で中国出身の金光日は牟田口を「とにかく面倒見がいい人だ」といい、全幅の信頼を寄せる。牟田口をオヤジと慕う経営者は多い。「今後はビジネスの交流だけでなく、アジアの文化交流にも力を注ぎたい」と牟田口は話す。その挑戦は終わらない。 敬称略